
千番目の神様

M.M

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

千番目の神様

【Nコード】

N0911N

【作者名】

M・M

【あらすじ】

なぜか人に好かれてしまう要^{カナメ} 光はすべてが手に入る。無気力な生活を送っていたところ、神と名乗る少女が現れ、光は神になってしまう。

今、世界中で流行している偽者の神を止めること、最初はそれだけだったのに・・・

プロローグ

俺は生まれてこの方、神というものを信じたことがない。
だが、信じれたらどんなにいいだろうと常々思っている。
俺の周りにいる神をあがめるやつらは口々にいう。

「神やばいよ、マジで。ハイパーだぜ？ 俺、あの人になれるなら
何してもいい。クソリスペクトだわ」

こんな感じで、目を若干ぎらつかせ、つばを軽く飛ばし、われを
忘れて騒ぎ出す。

人間関係なんてクソ食らえとばかりにどこからかクリームパイを
取り出して上下関係おかまいなしに投げつけまくる。

だが、一緒に神を信仰しているのならば話は別だ。

警官と犯罪者がお花畑でレッツダンス、なみに立場関係なくみんな
仲良くなる。

「な、神半端ねえだろ？ リスペクトだろ？」

と、つばを飛ばすやつらに、俺はいつもあー、すげえな、神。リ
スペクトだな、本当。と無気力に返している。

それだけで、神しか見えなくなったやつらは満足するようだ。

俺から離れ、仲間の元にいき、わいわい神について話している。

俺はそんなやつらを横目で見て、はっ！と心の中で鼻で笑う。

本当は、神なんていないんだ。なんていうつもりはない。

ただ、いたとしても、神はきつと無力だ。

「ねえ、神様のお兄ちゃん」

帰り道、無邪気に話しかける小さい子を見て、俺は困ったような笑顔を浮かべる。

「あのね、何度もいうけど、お兄ちゃんは神様じゃないよ？」

そういうと、子供はにっこりと笑う。

「いいの。私がお兄ちゃんを神様だと思うから」

そういつて無邪気に笑う子供の意見を否定してはいけないと思って、俺は口を閉じた。

俺は、なぜか人に好かれやすい体質だ。

物心ついたところから、外に出れば飴がもらえた。

夏休みなんかの予定はお誘いでぎっちりだったし、学校のテストでどんな点をとっても、先生に気に入られて成績は学年で一番だった。

ほしい物は気がつけばまわりにあったし、友達も驚くほどにいる。学校一の不良だって、俺には妙に親切だ。

俺の周りにはどんどん人が集まった。

それに比例するように、俺はだんだん世界が嫌いになった。

みんなが俺をうらやましがる。何でもできていいな、完璧でいいな、と。

だが、完璧ほどこまらないものはない。努力をしないほど、むなしいことはない。

だらけきった脳みそで、俺は神を憎む。

何で普通の人にしてくれなかったんだ、と。

憎んで、憎んで、憎みきって、そして。

俺は空っぽになった。こんなに憎んでも何にも起こらないなんて、きつと神はいないのだろう。

だから、俺はみんなが神をあがめだしたときも、ただ無感動にそれを見ていた。

一回友達に、神が運営しているサイトを見せてもらった。それを読むと、神のよさがわかると聞いて、読んでみた。だが、何も変わらない。

俺の中にみんなの言う神は降りてこなかったし、相変わらず神を否定している。

なんだ、神はいないのか。

そうだ、神はいないんだ。

小さいがっかりを抱える。

「当たり前だよ。この世に感じられる神はいないんだから」

いきなり声がふってきた。

子供が顔を上げ、楽しそうにつぶやいた。

「神様のお姉ちゃん」

ふる声は、姿を現し、にっこり笑う。

見かけは、そこそこかわいいの女の子。

だが、見かけを否定するほどの何かが、彼女にはあった。

「探したよ、千番目」

ぎ、と彼女が足を踏み出すたびに、俺は後ざすりをした。

いつの間にか、子供がいない。

「神なんていない・・・いい考えじゃない。でもね、人間が感じないだけであって、神様は本当はいるんだよ」

フリーズしかける脳みそを、俺は必死にたたき起こす。

なぜかわからないけど、この少女の話は聞かなければならない気がした。

「中途半端に神の力を持ちちゃったから、神を感じちゃったんだね・・・ごめんね、早くみつけれなくて」

彼女が、俺の頬に触れる。

懐かしいけど初めての感触がした。

「あんたが、神だよ」

衝撃の言葉を聞き、俺の脳みそは体とともに機能を停止する。

その中で、妙に合点が言った。

ああ、そうか。俺が神なのか、と。

プロローグ（後書き）

初・・・の連載です。
感想よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0911n/>

千番目の神様

2010年10月15日21時12分発行